

20098

急性大動脈解離術後の冠動脈内異物を OCT にて評価した 1 例

【症例】68 歳女性。緊急手術後 5 日目に胸痛を自覚、心電図変化軽度あるものの症状・心電図変化ともに自然消失。その後冠動脈 CT を行い LAD/D1 分岐部に高度狭窄を認めた。CAG 所見は造影 CT と同様であり、同部位を OCT にて観察すると内側が low intensity の部分を high intensity の層で取り囲んだ塊が D1 から LAD に飛び出てくるように認め、その塊につながるように赤色血栓像が得られた。また、D1 入口部は全周の血栓付着を認めた。血栓吸引後 1.4mm φ C カテにて ELCA を施行し、OCT にて観察。血栓量の減少を認め、Cutting/ NSE にて POBA を行ったが同部の透亮像が残存した。心臓血管外科医より外科手術に使用したフィブリン糊の可能性を指摘され、病理解剖へ提出。病理より、生物由来より人工産物の印象ありと報告された。【結語】急性大動脈解離術に使用したフィブリン糊が原因と思われる冠動脈狭窄症例を経験したので OCT 画像および病理解剖結果とともに報告する。